

インターバンクの声（2017年3月16日）

米連邦準備制度理事会（FRB）は14-15日に開催された連邦公開市場委員会（FOMC）で、市場の予想通りに政策金利を0.25%引き上げた。

ニューヨーク市場の午前中は114円台中盤から後半にかけての狭いレンジでFOMCの結果を待っていた円相場だったが、FOMCメンバーによる金利見通し（ドット・チャート）が、昨年12月時点と変わらない年内3回の利上げを想定していることが分ると、一気に113円台前半までドル売り・円買いが進んだ。

委員会メンバーの中でも一番のハト派とされるブレイナード理事から早期の利上げが適切との発言があり、そこへイエレン、フィッシャー正副議長の3月利上げに前向きな発言が続き、さらに先週末の雇用統計が予想以上に強い内容だったことで、市場が勝手に年4回の利上げを織り込み始めてしまっていたことがドル売りの反応を強めてしまった。

その意味では闇雲にドル売りを続けるのは危ない気もする。次は米景気への刺激となるトランプ米大統領の明解な政策に期待したい。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。